新潟大学農学部同窓会発行　発行責任者　渡辺　仁　編集責任者　柴宮秀生　印刷所　㈱小林印刷所　発行部数7,300

松涛

№40

2023. 3. 10

主な記事

同窓会長挨拶 …… 2
学部長挨拶 …… 3
常任幹事会報告 …… 4
今年度の活動計画 …… 4
同窓会会計報告 …… 5
農学部を去るにあたって …… 6
全学同窓会交流会 …… 6
支部だより …… 7
職場紹介　新潟県農業大学校 …… 10
ペンリレー　同窓生からのたより …… 11
トピックス …… 15
国際交流 …… 16
学部だより …… 17
嵐丘庭の草刈り …… 18
農学部の動向 …… 18
インフォメーション …… 20

同窓会長挨拶

同窓会長　渡辺　仁
（昭52農工）

日頃から、農学部同窓会の諸活動にご理解、ご支援を賜り、御礼申し上げます。

昨年は、ロシアのウクライナ侵攻、安部元首相襲撃事件やそれを機に大きな社会問題となった旧統一教会疑惑など騒がしい一年でした。

そんな中で、流行語大賞にもなった「村神様」で一躍有名となったヤクルトスワローズの村上選手や二刀流で好成績をあげた大リーグ大谷選手の活躍、ワールドカップで2大会連続決勝トーナメントに進んだサッカー森保ジャパンの大健闘など、スポーツ界では明るく元気になれる話題が多かった年ではないでしょうか。

一方、コロナ感染は、世界的には落ち着きを見せ、段階的に行動制限も緩和され外国人観光客の数も日に日に増加しているようです。しかし、依然として国内では若い年代を中心に感染者が拡大し、第8波の拡大とインフルエンザの同時流行が懸念されています。改めて、普段の感染予防対策を徹底したいと思う今日この頃です。

全国の大学では、まだまだ制限はあるものの、対面授業の再会や、各種行事も徐々に再開していると聞いております。

新潟大学でも、令和3年度の卒業式、令和4年度の入学式ともに全学合同では3年ぶりに開催されました。新型コロナウイルス感染防止対策の徹底、参加者を卒業生、入学生及び式典関係者に限定、ご家族向けにはYouTubeライブ配信などの対策をとった上での開催でした。

ただ、学位記の授与式は学部単位で実施し、卒業祝賀会は中止となったほか、保護者懇談会も一昨年同様Zoom配信となりました。保護者の皆さんに直接同窓会への加入をお願いする機会が無くなって残念でしたが、昨年の入会率は70％台にまで回復し、更なる入会促進に努めていきたいと思っています。

同窓会活動も少しずつ従来の姿を取り戻してきました。

全学同窓会では、幹事会も対面形式で開催され、学生団体や大学との懇談会も懇親会無しではありましたが開催出来ました。

一昨年はオンライン形式での開催となった新潟大学と全学同窓会の交流会講演会も、昨年は農学部が担当し、牛木学長、臼杵全学同窓会長を含めて約90名の参加を頂き好評のうちに幕を下ろすことができました。

記念講演では「新潟の酒はなぜうまい」をテーマに石本酒造の渡邊常務、特別企画では「ミニ唎酒コーナー」という設定で朝日酒造の新野参与からお話を伺いました。酒好きの私としては、何れも興味深い内容でした。

当日の講演会の模様は、YouTubeで配信しました。

農学部同窓会では、5月28日（土）に久しぶりに各県支部の6名を含めて27名の幹事が出席し常任幹事会を開催しました。

懇親会も、隣とは仕切板がありましたが普段通り円卓形式で開催し、懐かしい話で適度に盛り上がり今年の再会を期してお開きとなりました。

また、慣例となった嵐丘庭の草刈りについては、6月25日（土）に実施しました。コロナ感染防止に配慮して在校生の参加はありませんでしたが、大学の教員とその家族、県職員やOBを中心とした同窓会有志が30人ほど参加し、心地よい汗をかきました。残念ながら作業終了後の昼食会は開催出来ませんでした。

今年は、農学部同窓会創立70周年にあたります。一昨年末に実行委員会を立上げ、記念事業の内容を詰めるとともに、募金活動も開始したところです。

「日本酒学」をテーマとした記念講演、皆さんに親しまれている「嵐丘庭」の再整備や記念誌作成が主な事業ですが、同窓生の皆さんからの資金面でのご支援に期待しております。

そのほか、学部への支援活動も、様々な制約がある中ではありましたが、例年通りに実施できました。

今後とも少しずつですが、活動の充実を目指していきたいと思っています。

ロシアのウクライナ侵攻をきっかけとして、世界的な食料不足や価格高騰などの問題が提起されており、国内では、飼料、肥料の国産化が喫緊の課題

となっております。

しかし、農村地域は担い手の確保が難しく、日本農業の持続的な発展を担保するには、生産者の確保はもとより、農業資源の確保、更にはそれらを各方面から下支えする人材の確保が重要です。

新潟大学では、「新潟大学将来ビジョン２０３０」（Ｒ４～Ｒ９）を策定し、「自律と創生」の理念のもとに、全学の知を結集して未来のライフ・イノベーションのフロントランナーとなることを目指すとしております。

農学部も、21世紀における「技術的な農業の発展と環境の保全」を目指し教育研究を進めるとしており、「生命」・「食料」・「環境」を考える総合科学としての農学の発展と共に、これからの日本農業を担う人材の輩出にも期待が高まっております。

今年も、コロナ禍に負けず、各種同窓会活動をとおして後輩の皆さんの後押しが出来ることを切に願っております。

引き続き会員各位のご理解とご支援をお願い申し上げると共に、今年11月に予定されている創立70周年記念事業への絶大なご支援を重ねてお願い申し上げます。

最後に、皆様の益々のご健勝とご発展を祈念し、ご挨拶とさせていただきます。

学部長挨拶

農学部長　中田　誠

農学部同窓会の皆さまには、日頃より農学部の活動に多大なご支援を賜り、農学部教職員を代表して御礼申し上げます。冒頭の渡辺同窓会長の挨拶では、国内外の情勢とともに、大学内の様子についても詳しく述べられていますので、私から申し上げることはあまりありません。それでも一部重複しますが、この一年間を振り返り、思い付くことをいくつか述べたいと思います。

世界的なコロナ禍に入り、丸三年が経過しました。当初は二年ほどで収まるものと予想されていたようですが、新型コロナウィルスは変異を繰り返しながら、感染者数の増減の波を何度も繰り返してきました。昨年の松濤では、新潟大学の感染者数が低いレベルに抑えられてきたことを述べましたが、さすがにこの一年間は、世間一般の感染者数と同様に、新潟大学でも相当数の陽性者が出ており、これについては大学ホームページでも公表されているところです。しかしながら、教育・研究活動に起因して感染が広がったケースはほとんどありませんでした。新潟大学では令和四年度の第二学期（十月）から、授業は原則対面型へと大きく舵を取りました。社会経済活動の再開とともに、大学も本格的なウィズ・コロナ時代へと入り、キャンパス内に学生たちの元気な姿が戻ってきました。われわれ教員にとっても、マスク越しではあるものの、学生たちの顔を見ながら授業をできることに、今更ながらに喜びを感じています。コロナ禍で大学生となった令和二年度入学生も、この四月からは四年生になり、本格的な卒業研究や就職活動を始めます。

この一年間の本学農学部の大きなトピックとして、文部科学省の「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業ＤＸをけん引する高度専門人材育成事業」に令和三年度補正予算で採択されたことが挙げられます。これにより、令和四年度に無人仕様の田植え機やトラクター、土壌分析装置、リモコンラップマシン、ドローンなど、最新鋭の機器が村松と新通にある農場に導入されました。農業分野のデジタルトランスフォーメーション（ＤＸ）によるスマート農業への新たな取り組みが始まりました。フィールドを舞台とした実験・実習科目等の開発・高度化を通じて、データサイエンティストの資質を備えた高度農業人材を育成する体制が整いつつあります。

新潟大学を含めて、国立大学法人が令和四年度から新たな（第四期）中期目標・中期計画期間に入ることを松濤の前号で述べました。令和四年三月三十日付けで文部科学大臣から認可を受けた新潟大学の中期計画のうち、次のようなものが農学部と深い関係にあります。「ライフ・イノベーションを中心とした地域共創未来ステーションの構築と地域連携」、「ライフ・イノベーションを通じた地球規模の課題や未来社会の実現への取組」、「地方創生に資する人材育成のための教育プログラムの充実及び新設」、「新潟のフィールドを活かしたグローバルな学びの構築」、「共創スペースを活用した研究成

果の社会実装研究」、「予測困難な災害に対してレジリエントな社会の創生を目指す研究拠点」、「産業界、地域社会との連携」、「共同利用拠点を活用した組織的な連携の推進」、「デジタル・キャンパスの推進」。これらの多くの課題に対して、本学農学部が大きな役割を果たすことが期待されています。また、農学部は、本学の他学部や、全学共同教育研究組織である日本酒学センター、佐渡自然共生科学センター、アジア連携研究センター、全学附置研究所である災害・復興科学研究所と連携した研究を強く進めています。このような環境で学生・院生の教育を行うことにより、広い視野と高度な知識・技術をもった人材育成を可能としています。

新潟大学農学部は、地域に根差しつつも広く世界を視野に入れ、人類の幸せな未来を実現するために、教育・研究・社会貢献に一層の努力を続けて参ります。農学部同窓会の皆さまには、今後も変わらぬご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

新潟大学農学部同窓会常任幹事会が開催されました

常任幹事会が、令和４年５月28日（土）アートホテル新潟駅前において、開催されました。

コロナ禍も徐々に治まりを見せ、「まん延防止等重点措置」も解除されたことから、３年ぶりに通常どおりの開催となり、各県外支部長も交えての開催となりました。

常任幹事会は渡辺　仁会長の議事進行により、物故者への黙とうから始まり、２０２１年度の各種報告事項及び執行部提案の２０２２年度活動計画、事業予算の審議が行われ、承認されました。

引き続いて、杉山稔恵幹事長から農学部の近況について説明がありました。

幹事会終了後は、感染対策を十分に施したうえでの懇親会開催となり、久しぶりに和やかな歓談が行われました。

２０２２年度活動計画

幹事長　杉山　稔恵（平1畜産）

本年度も新型コロナウイルス感染症の収束が見通せない状況が続くと思われますが、収束の期待の下、農学部「学術・文化活動への支援」と在学生への学ぶ環境の整備として「農学部図書室への支援」、農学部学生の「就業力育成事業への支援」等を中心に、例年とおりの事業を企画し、可能な事項から実施していく。

1．「松濤」40号の発行

同窓生からの投稿を促し、また、農学部の「今」をお知らせできる会誌を目指します。

2．『嵐丘庭』の維持・管理をとおしての有効活用を図ります

農学部の顔である「嵐丘庭」の維持・管理をとおしての交流事業等を行い、農学部同窓会活動の活性化のため積極的な声掛けを行います。特に今年度は木道の破損個所の修理を行います。ただし、来年度農学部同窓会の創立70周年を迎えることから、記念事業として木道の整備を行う予定としているため、必要最小限の整備とします。

3．学部内諸行事への支援

「卒業祝賀会」開催への支援を行います（卒業生出席無料）。

4．学術・文化活動への支援

農学部が行う国際交流事業、および農学部フォーラム／ＫＡＡＢフォーラム等の学術・文化活動を支援します。

5．受験者増加への取組みに対する支援（農学部の魅力ＰＲ）

農学部を理解してもらうための「高等学校への訪問」及び「高等学校教員の招聘（アドミッションフォーラム）事業」への支援を行います。

6．農学部在学生のための農学部図書室の充実支援

在学生への具体的な支援の取組として、農学部図書室の充実支援を行います。

7．農学部学生の就業力育成に係る支援

農学部学生の就業力育成にあたり、卒業生による指導、助言のための講演、研修会などの支援を行います。

8．全学同窓会活動の運営及び各種行事への参加協力

渡辺会長：全学同窓会副会長・理事、杉山幹事長、佐藤在校幹事：運営委員会委員

2021年度新潟大学農学部同窓会 事業費決算報告（令和3年5月1日～令和4年4月30日）

１．収入の部　（円）

科　　目	予　算	決　算	増　減	備　　考
基金収入からの繰入	3,100,000	3,100,000	0	
前年度繰越	1,606,008	1,606,008	0	
利子・雑収入	27	27	0	利息 27 円
合計	4,706,035	4,706,035	0	

２．支出の部

科　　目	予　算	決　算	増　減	備　　考
１．事務局費	700,000	452,232	▲ 247,768	通信費、光熱水料、電話料、謝金、消耗品費等
２．会議費	200,000	135,203	▲ 64,797	常任幹事会旅費、常任幹事会会場使用料等
３．名簿情報維持管理費	75,000	74,795	▲ 205	名簿データメンテナンス
４．卒業祝賀会費	700,000	0	▲ 700,000	新型コロナウイルス感染の拡大による　中止
５．退職者記念品費	0	0	0	退職者なし
６．嵐丘庭維持費	100,000	71,538	▲ 28,462	中庭草刈り２回（同窓生・教職員との交流）
７．「松涛」発行費	1,350,000	1,322,545	▲ 27,455	「松涛 39 号」「しおり」印刷、郵送等
８．慶弔費	50,000	0	▲ 50,000	
９．支部活動助成費	353,960	353,960	0	8 支部（6 支部35,550 円、新潟県支部70,110 円、首都圏支部 70,550 円）振込送金
10．学文活動助成費	250,000	0	▲ 250,000	
11．全学同窓会負担金費	434,830	434,830	0	令和３年度入学定員による比率（%）8.1131
12．ホームページ費	50,000	5,000	▲ 45,000	ホームページ更新等
13．志願者確保対策助成費(高校訪問旅費助成費)	170,000	0	▲ 170,000	教員による高校訪問　アドミッションフォーラム等　中止
14．農学部図書室充実費	100,000	99,970	▲ 30	農学部学生による希望図書の購入補助
15．学生の就業力育成に係る助成費	50,000	4,000	▲ 46,000	就職ガイダンス謝礼
16．予備費	122,245	0	▲ 122,245	
合計	4,706,035	2,954,073	▲ 1,751,962	

３．差引残高（Ａ－Ｂ）1,751,962 円　次年度への繰越金

2022年度新潟大学農学部同窓会事業会計予算（令和4年5月1日～令和5年4月30日）

１．収入の部　（円）

科目	本年度予算	前年度決算	増減	備考
基金収入からの繰入	3,400,000	3,100,000	300000	
前年度繰越	1,751,962	1,606,008	145,954	
利子・雑収入	27	27	0	
合計	5,151,989	4,706,035	445,954	

２．支出の部

科目	本年度予算	前年度決算	増減	備考
１．事務局費	700,000	452,232	247,768	全学同窓会交流会・役員会出席補助、通信費、電話料、各支部への出張旅費、謝金、消耗品費等
２．会議費	200,000	135,203	64,797	常任幹事会開催関係経費等
３．名簿情報維持管理費	75,000	74,795	205	名簿情報メンテナンス等経費
４．卒業祝賀会費	700,000	0	700,000	卒業祝賀会費補助
５．退職者記念品費	15,000	0	15,000	退職者教員１名（@ 15,000）
６．嵐丘庭維持費	500,000	71,538	428,462	除草等、木道補修 356,400
７．「松涛」発行費	1,400,000	1,322,545	77,455	「松涛 39 号」「しおり」印刷、発送等
８．慶弔費	50,000	0	50,000	弔電、生花代等
９．支部活動助成費	353,960	353,960	0	支部活動助成(6 支部@ 35,000 首都圏、新潟県@ 70,000）振込手数料
10．学文活動助成費	250,000	0	250,000	３大学合同研修会、ＦＣシンポ、新大ＧＰ、農学部フォーラム等
11．全学同窓会負担金費	403,595	434,830	▲ 31,235	令和４年度入学定員による比率（%）8.0719
12．ホームページ費	50,000	5,000	45,000	HP メンテナンス等経費
13．志願者確保対策助成費(出前講義旅費助成費)	170,000	0	170,000	高校訪問、アドミッションフォーラム等
14．農学部図書室充実助成費	100,000	99,970	30	農学部学生用図書及び閲覧スペースの充実
15．学生の就業力育成に係る助成費	50,000	4,000	46,000	農学部学生の就業力育成のため農学部卒業生による指導・助言
16．予備費	134,434	0	134,434	
合計	5,151,989	2,954,073	2,197,916	

2021年度新潟大学農学部同窓会基金会計報告（令和3年5月1日～令和4年4月30日）

１．収入の部　（円）

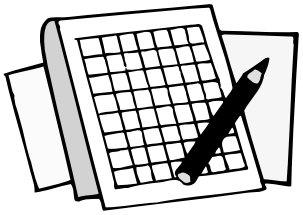
科　　目	前年度	今年度	増　減
繰越金	24,981,749	25,737,040	755,291
基金収入（入会金）	4,054,636	4,710,323	655,687
利子	655	1,357	702
合　　計	29,037,040	30,448,720	1,411,680

２．支出の部　（円）

科　　目	金　　額	備　　考
事業費繰入	3,100,000	
70 周年事業費	64,726	
合　　計	3,164,726	

３．次年度への繰越金　（円）

科　　目	金　　額
収入合計	30,448,720
支出合計	3,164,726
繰 越 金	27,283,994



農学部を去るにあたって

退任のご挨拶

中田　誠

時代が昭和から平成に替わった直後の平成元年七月に新潟大学に着任し、三十四年近くが経ちました。着任当初は農学部附属演習林（現在の佐渡自然共生科学センター・演習林）に勤務し、当時の農学部にあった林学科と連携しながら教育研究に携わってきました。約六年間の演習林勤務ののち、農学部生産環境科学科（当時）に移り、平成二十九年度の学部改組で農学部農学科担当となり、現在に至りました。私の研究室にはさまざまな対象に興味を持つ個性豊かな学生が多く集まり、森林、植物と環境（土壌、水、大気、気象）に関する研究のほか、鳥類、昆虫類、大気汚染の研究にも携わってきました。学生に対しては研究指導を行うだけでなく、学生たちからも多くのことを学び、自分自身の興味や専門の幅が広がったことは私にとっての大きな財産です。さまざまなフィールドで学生たちと一緒に行った調査が貴重な思い出でもあります。そういった意味で、新潟大学農学部で教育研究に携われたこの三十四年間は、私にとって大変充実した期間でした。五十歳代の後半からは学部運営の仕事が多くなり、とくに平成二十九年度の農学部改組に携われたことは大きな出来事でした。また、この改組の際に農学部と理学部が共同で運営する学部横断型プログラムを設置できたこと、大学院では東アジアの大気汚染問題に関わる連携講座の設置にも携わることができ、新潟大学に少しは恩返しをできたのではないかと思っています。新潟大学農学部は、教員規模こそ比較的小さいものの、地域社会に大いに貢献しており、有為な人材を多く輩出してきました。このような高い活性を維持するとともに、新潟大学農学部のさらなる発展を祈念して退任のご挨拶とさせていただきます。長い間、ありがとうございました。

新潟大学・全学同窓会交流会が開催されました

新潟大学・全学同窓会交流会がＡＮＡクラウンプラザホテル新潟において、開催されました。

コロナ禍のため、３年ぶりに通常どおりの開催となり、交流会における講演会を農学部同窓会が担当しました。

講演会では牛木学長の挨拶に続き、記念講演として石本酒造株式会社常務取締役の渡邊健一氏から「新潟の酒はなぜうまい」と題して、新潟清酒の現状、新潟の酒造りの特徴、新潟大学で開講されている日本酒学との連携・期待などを約１時間にわたり講演していただきました。つづいて、特別講演として朝日酒造株式会社総務部参与の新野義弘氏から「ミニ唎酒コーナー」と題して、清酒久保田千寿、満寿、純米吟醸酒を基に日本酒の味わい方等のお話を約20分にわたり披露していただきました。

いずれの講演も大変好評で、その後の懇親会もコロナの感染拡大に十分対策をとりながらも和やかに行われ、講演から懇親会まで盛況のうちに終えることができました。

石本酒造　渡邊　氏

朝日酒造　新野　氏

支部だより

◆新潟県支部

昨年開催されたサッカーワールドカップ、日本中が盛り上がったのは記憶に新しいところです。日本代表、念願のベスト8は逃したもの、1次リーグで優勝経験のある強豪国を2度も倒し「ドーハの歓喜」を味わうことができました。今年、6年ぶりにJ1に復帰したアルビレックス新潟でコーチ経験もある森保監督や日本代表チームらに感謝と敬意を払いつつ、8強入りという「新しい景色」は4年後、「再び」挑み、見せてくれることを期待します。

さて、昨年あたりから新型コロナ感染状況が収まらない中で社会経済活動も本格的に動き出し、県内各地でも長岡花火など祭りや大型イベントが「再開」されました。2～3年間できなかった行事やイベントに久々に参加すると、改めてそれぞれの良さや楽しさを「再発見」することができます。

全学同窓会交流会の司会、うまくいきませんでした

昨年10月15日には、新潟大学全学同窓会交流会が開催され、当農学部が企画開催の当番の中で、「新潟のお酒」にまつわる講演会や「きき酒」を楽しみました。全学同窓会交流会もここ数年、中止やオンライン形式でしたので、こちらも対面式で「再開」されました。当支部もこのイベントに協力し、当日は僭越ながら私の方で司会をさせてもらいましたが、不慣れなこともあり「カミカミ」でした。「ふたたび」という言葉に当たる漢字「再」には「再開」「再生」「再起」など前向きな感もありますが、大きなイベントの司会や挨拶の方は、「再度」お願いされても断りたいと思います。

ところで今年11月11日には、農学部同窓会創立70周年事業という大きなイベントが計画されています。折角の機会ですので、この日、同級会など学生時代の旧友と久々に「再会」するイベントなど企画してみてはいかがでしょうか。

佐藤　一志（昭61農）

◆首都圏支部

新型コロナウイルスの影響で令和2年から総会開催を中止しておりますが、今年6月頃に4年ぶりの開催を目指し準備を進めています。

このような状況なので、今回は首都圏で活躍している卒業生（松浦くん、H8、農院卒）の近況を報告します。

『平成8年（1996）に大学院を修了し、農林水産省横浜植物防疫所（写真）に勤めている松浦貴之と申します。私が就職した当時は就職に苦労する学生も多い中、運よく植物防疫所に入ることができ、今に至ります。植物防疫所は、海外からの植物病害虫の侵入を防ぐために全国の港湾・空港での輸入検疫、諸外国の要求に応じた輸出検疫、国内での重要病害虫まん延防止を担う国内検疫といった実務とこれらを行うための病害虫の分類・生態・危険度解析や消毒技術の開発といった調査研究も行っております。私自身は大学在学中の研究で十分満足したため、研究をすることはないと思っていましたが、入省4年目の人事異動で調査研究部門に配属となり、以降は、ほぼ調査研究部門で過ごしてきました。防疫所の調査研究は、日本の農業を守るためにどのように植物検疫に役に立つか、日本の農業に対してどういう影響があるかに重点を置いているため、純粋な研究とは異なりますが、十分にやりがいを感じながら、なんとか日々を過ごしております。』

今年こそ支部総会で、皆さんの元気なお姿に接することが出来ることを楽しみにしていますので、是非ご参集頂きますようお願い致します。また、今年11月には農学部同窓会発足70周年記念式典も新潟で予定されていますので、こちらへの参加も重ねてお願い致します。

加藤　彦枝（昭56農工）

◆富山県支部

令和4年12月22日（木）、農学部農学科で流域環境学プログラム及びフィールド科学人材育成プログラムを担当される農業水利学研究室の吉川夏樹教授をお招きし、令和4年度の富山県支部総会・懇親会を盛大に開催しました。

新型コロナウイルスのまん延防止のため、令和2年度以降は開催できておりませんでしたが、会員の皆さんから顔を合わせて話す機会を是非設けてほしいとの声もあり、どれだけ参加者が集まるのか心配しておりましたが、42名もの会員に出席いただき、開催することができました。

総会では、昨年度の活動報告・会計報告とともに、役員改選について承認され、新支部長に佐藤宏（林経：S59卒）氏、副支部長に橋本正義（土保：S55卒）氏・坪田安弘（草地：S57卒）氏の両名が新たに就任いたしました。

続いて、吉川先生から自己紹介を兼ねた「田んぼダム」の研究についてmini(?!)講義をしていただき、農学の分野が如何に重要なのかについて改めて確認することができました。さらに、学部へ進んでからもしっかりと勉強をしておかないと、希望するプログラムを専攻出来ないという厳しい現実を紹介していただきました。（ちなみに、一番人気は「食品化学プログラム」だ

そうで、女子学生が多く集まるとのことでした。）

懇親会では、これまで開催できていなかった間に富山県支部の一員となられた新入会員の4名に一人ずつ職場での体験などを交えて自己紹介をしていただきました。平成31年3月卒業の渡辺まりあさん（動生）は、高校教諭として農業環境科を担当されており、令和2年3月卒業の松能美緒さん（森環）と山端晃彦さん（森環）は、ともに富山県職員となられ、林道や治山事業の業務を担当、令和3年3月卒業の池口渓介さん（農工）も県職員として、農地整備事業の業務を担当されていることが報告されました。この話を聞いた先輩方からは、新たな世代の活躍が続いていることに喜びを感じ、大きな拍手と熱い励ましで会場は大いに盛り上がりました。

さらに、県政界でご活躍いただいている同窓の中川忠昭（土改：S56卒）両県議から、井上学（土改：S47卒）・令和5年4月に行われる4年に一度の『試験』について意気込みが述べられ、その声に応えるが如く、参加者からは大きな拍手と声援がありました。

これまで懇親会の締めくくりとして、出席者全員で肩を組み、歌っていた「農学部学生歌」「四季の新潟」は、新型コロナウイルスまん延防止のため、残念ながら歌うことはできませんでしたが、次回には是非にと皆さんが心に誓い、橋本正義副支部長の万歳三唱で、尽きることの無い大学時代の思い出話のひと時を終了いたしました。

心配はいろいろありましたが、開催してみて改めて対面での人との交流は、大切なのだと感じることができました。そして、令和5年の11月に開催される同窓会70周年の記念事業には、大型バスを用意して新潟に向かうなど、わくわくする活動を企画できればと思います。

平木　叙光（平6農工）

◆秋田県支部

新型コロナ感染症は第8波に入り、依然として勢いは衰えを見せていません。本県においても千人を超える日々が続いており、知人や身内にまで発症者が出るなど、身近に迫っている感がします。当方、5回目のワクチン接種を済ませたとはいえ、高齢の域に入り基礎疾患を持つ身としては、今冬は細心の注意が必要と釘を刺されております。わかっていることではあるが、いつまでこの状況が続くのか、会合をはじめ様々な活動はいつまで自粛したらいいのか悩ましいところであります。

本支部の総会は、本部の幹事会を受け、毎年6月から7月にかけて開催しており、ここ2年は中止せざるを得なかったものの、今年は3年ぶりに7月23日に開催しました。第7波が終息していなかったため、参加を見合わせた会員もおり、10名ほどの参加でありましたが、顧問の神戸先生をはじめ、久々に会員の皆さんにお会いでき、開催できた意義は大きいと感じております。今日、若い世代だけでなく、全般的に同窓会への関心が低下し、意義が問われる中で、今回の感染症拡大が同窓会活動の低下に一層拍車をかけてしまうのではと懸念しております。残念ながら当支部でも12月に開催していたもう一つの恒例行事、忘年会は、第8波により中止となってしまいましたが、同窓会活動に多くの会員の参加が得られるよう何かしら考えていきたいものです。また、新潟から足が遠のいておりますが、コロナ以前のように訪れ、旧友との親交を深めたいものです。

小島　武志（昭52農工）

◆福井県支部

福井県支部では、コロナウィルス感染対策の影響で3年ぶりの開催となった総会を令和4年11月22日（火）に福井市内で開催しました。今回の総会は、計8名のご参加をいただき、楽しい雰囲気のなか、有意義なひと時を過ごしました。

総会では、小竹会長のあいさつの後、会計報告と常任幹事会の参加報告を行い、記念撮影と懇親会に移りました。会長からの常任幹事会の参加報告では、本年5月の五十嵐キャンパスの農学部棟および第1学食、新しく近代的な駅舎に変わった内野駅、そして新潟駅裏口の再開発工事の様子などについて、見聞された写真を用いて貴重なご説明をいただきました。懇親会では、ご参加いただいた皆さんから、日々のご活躍などのお話を伺うとともに、今後の活動においては、若い年代の会員が参加をし易い行事を考えていったらどうかとの前向きなご意見をいただきました。

今後は小竹会長から交代をされた山口会長を中心に、引き続き会員が力を合わせて福井県支部を盛り上げさせていただければ幸いに思います。

来年度におきましても、会員の皆様が益々ご活躍をされますことを願っております。

竹内　伸一（平3農工）

◆福島県支部

令和4年8月6日から、四国・徳島とくぎんトモニアリーナ（徳島市立体育館）で、令和4年度全国高等学校総合体育大会・全国高等学校弓道大会が開催されました。

そこで、福島県立橘高女子個人・女子団体が、二年連続で本年度も出場できました。元福島女子高から引き続き、外部コーチとして通う、弓道部の活躍に、胸躍る快挙。しかし、残念、本年度は予選敗退でした。

この日の為に、スマホを手にし、実況放送での射場での熱戦に、部員全員が参加でき、一層の努力を誓う大会となった。そして、戴いた土産の美酒が涙の味に。その上、修学旅行で、コロナに感染、学級閉鎖、部活動の禁止の心配事まで起きた。

一方、今年から外部コーチとして通う、福島県立南高弓道部でも、同様の出来事があり、高校生の感染の広がりを、身近に感じたことでした。

このような状況で、福島県支部では、今年も総会が開催されないまま、数年が過ぎています。コロナの収束まで、支部活動のあり方は、どうすれば良いのか、考えさせられます。

思いがけないニュースがありました。令和4年6月25日から、全日本弓道連盟中央道場で、第36回全国大学弓道選抜大会が開催され、新潟大学が出場していました。

恐らく、北信越地区大学弓道選抜大会の予選を優勝で飾り、選抜出場となったと思われます。凄いことです。以前、教え子が弓道部で活躍したこともあり、後輩の諸君が活躍してくれていることを嬉しく思います。残念なことに、予選敗退で、決勝には進めなかった様です。

思えば、第3回北信越学生柔道優勝大会が、福井大学で開催され、新潟大学が優勝し、第3回全日本学生柔道優勝大会（東京都体育館で開催）に出場。東京教育大学に敗れた記憶が蘇えってきました。懐かしく、古の出来事です。

こちらも、3年ぶりに、令和4年11月4日、福島市民体育祭総合表彰式が開催され、閉会に当たり、講評をする機会が与えられました。そこで、例えば、弓道競技の場合では、「全日本女子弓道選手権（皇后杯）」で、準優勝の選手を中心に、各部門で熱戦が展開されました。88歳の高年者が、「皆中する」など、各自が、蔗を嚙む境地に至り、心を空しくして、28メーター先の、的に向かう境地に、醍醐味を覚える己に、幸福を感じることが出来た、大会となりました。と。

新型コロナの影響で、支部活動も思うように運べない状況です。一日も速い収束を願うばかりです。

髙久　英昭（昭32農）

◆長野県支部

長野県支部では、2020年度及び2021年度はコロナ禍のため、連続して幹事会・総会とも中止しました。2022年度には、幹事会のみの開催とし総会はやはり中止しました。第6波、第7波、第8波と繰り返すなか、タイミングによっては可能な時期もあったかもしれませんが、安全策をとることとしました。その換わりといってはなんですが、前報で秋田県支部が報告していた「支部だより」を出すことを幹事会で承認していただきました。支部長、前支部長からも原稿を寄せていただいております。あとは、事務局である小生の編集・発行作業になりますが、本稿執筆中の現時点では未発行です。本号が発行されるまでには、完了したいと考えております。

前号に続き、本稿では小生の雑感を記載することで支部報告に替えます。長野県の研究職員として30年間以上「きのこの栽培・育種」に携わってきました。その間、目標とした先人に新潟大学農学部出身の庄司　当（しょうじ　あたる）氏（故人）がいます。庄司氏は、昭和31年林学科を卒業後に福島県職員に採用され多くの研究業績をあげられました。特にナメコ栽培、マイタケ栽培の基盤となる技術を確立しています。新潟県では近年、企業も含め大規模なナメコ・マイタケの生産施設が出現し生産量を伸ばしています。底流には庄司氏がつくった技術があると考えています。当時農林業では、開発した技術の多くを知的財産化する時代ではありませんでした。庄司氏のお名前が時とともに忘れられないかと勝手に心配しています。ちなみに長野県もきのこの大産地ですが、県を超えて庄司氏の業績が活かされています。改めて庄司氏のご冥福を祈ってやみません。

増野　和彦（昭57林）

◆北海道支部

本年度もコロナ渦の中で北海道同窓会の総会と懇親会は中止といたしました。役員の改選もできないため、令和元年度からの役員体制もそのままです。

同窓会員へのお知らせには、平成5年11月に計画されている同窓会創立70周年記念事業も紹介しています。

今年も私の近況を報告します。昨年、出身地・北海道滝上町に「和種はっか」の資料を寄贈したところ、本年は滝上町から「はっかアドバイザー」を委嘱されました。関係機関によるはっか振興打ち合わせや道内外からのはっか栽培視察団への講義や解説などの依頼も受けました。添付画像は視察団がはっか蒸留施設を見学しているところです。

ただ、滝上町までは大雪山系を縦断し、車で片道三時間半の行程は少しきついです。

また令和2年度から、住んでいる帯広市の「食育推進アドバイザー」に登録しました。小学校で十勝の畑作全体や個々の作物について、パワーポイントで紹介したり、あらかじめ頂いた質問に答えることで地元の農産物とその食べ方に理解を深める活動を行うほか、帯広市食育推進計画策定にも参画しています。

五十嵐　龍夫（昭51農）

職場紹介

新潟県農業大学校

真島徳衛（昭61畜産）

【沿革】

昭和38年鎧潟干拓地に、新潟県で近代的な農業経営を目指す農業の担い手と農村地域の指導者の育成を目的に、本校の前身である新潟県農業教育センターが発足した。そして昭和54年に新潟県農業大学校として再編・発足し、平成19年には研究科を新設。平成20年には専修学校に位置付けられ、時代に合わせて改革を進めてきた。併せて、就農希望者や一般農業者等を対象とした研修センターも併設し、新潟県農業の発展に寄与している。

【学科及び研究科の紹介】

○学びの特徴

稲作経営科では、50ａの区画に整備された約25haのほ場を用い、稲作のＩＣＴ技術を用い大型機械化一貫体系による栽培技術とG-GAPに取り組んでいる。なお、令和5年度からは2haに整備された2枚のほ場で作付けが始まる。

園芸経営科の野菜専攻では越後姫のG-GAP、果樹専攻ではル・レクチェや日本ナシ等の栽培、花き専攻ではユリ・チューリップ等の栽培に取り組むほか、環境制御ハウスやドローン、スマートグラスなどの先端機器を取り入れた授業を行っている。ハイテクハウスによる育苗技術にも取り組んでいる。

畜産経営科の酪農専攻では乳牛約14頭、肉用牛専攻では繁殖牛約13頭を飼育し、飼料ほ場約7・5haからサイレージを作っている。

研究科では、スマート農業や農業経営の大規模化に向けた最先端の研究に取り組んでいる。

○募集定員及び入校生の特徴

学科の募集定員は80名で、入校生の約6割が非農家、普通高校出身者である。近年は四大卒・中退者の受験も比較的多く見られるようになっている。一方、研究科の募集定員は10名だが、現在、2年2名、1年1名のみであり、令和5年度入校生の募集を休止する。

○卒業生の進路

卒業生の進路決定率は１００％である。卒業後の進路は農業法人就業・自家就農が約54％、農協・農業関連産業は約37％、四大編入学等の進学は約9％で、他が他産業就職となっている。

【研修センターの紹介】

担い手研修、農業機械研修の他、高校生を招いてのアグリキャンパスツアー等を実施している。

【トピック】

農業情勢の変化を捉え、大学校が学生と農業法人とをつなぐプラットフォーム機能を果たすように、カリキュラム等の見直しを現在行っている。農業法人マッチングフェア、農家研修等の指導体制の充実と共に、農業知識・技術に加え、人間力の育成が図られるように、教育目標の改訂とルーブリック評価の導入等を視野に検討を進めている。

【新潟大学農学部出身者】

本校の校長、副校長を筆頭に、技術職員25名中、13名が新潟大学農学部の卒業生です。また、本校の授業では、新潟大学農学部の現役教授、准教授、助教の先生方をはじめ、農学部卒で県農林水産部等で勤務されている多くの方々から非常勤講師として授業をお願いしている。

ペンリレー 同窓生からのたより

卒業してもう26年?! の近況

笹川泰子（平8生環）

あまり真面目な学生ではありませんでした。所属していた演劇研究部の活動が生活の中心にあり、公演を控えた時期は、夕方から夜までが全体の練習。深夜から朝までが裏方としての個人作業で、昼間は（友人は真面目で熱心な子ばかりだったため）教室の前の方に座っては、15分以内に入眠するという、最悪な授業態度で過ごした四年間。お世話になった先生方に、申し訳ない気持ちでいっぱいです。

それでも、論文のために時々通った村松の桜や鹿、研究室に遅くまで残っていた時に窓から見えたイカ釣り漁船の光、大雨の後学部棟前に出現する池、夜を徹して描き直した製図など、美しい風景が色々と記憶に残っています。

卒業し、農業科を教える高校教員になりましたが、生徒引率や説明会で大学を訪れる度、不真面目でもの知らずだった学生時代の自分を思いだし、一人悶えています。知識も経験も技量も覚悟も足りず、失敗ばかりで、未だ勉強の日々ですが、周囲の方々の優しさで生かしてもらいながら転勤を繰り返し、業界の隅っこで25年以上働かせてもらっています。昔見た美しい風景や、演劇に熱中した記憶に、支えてもらった部分も大きいです。

ありがたいことに、何回か演劇部の顧問を経験し、大会での成果はないものの、他校の劇研ＯＢと共に生徒の活動を楽しくお手伝いしています。また、新大農学部を志す生徒さんを応援する機会にも数回恵まれました。現任校では、学生時代お世話になった、中野和弘先生が講師でいらしていて再会できました。大学では、人のお役に立てることなど全くなかった私ですが、仕事を通して、昔支えてくれた様々な人、もの、ことに恩返しし、未来ある人たちのために働ける幸運を噛み締めています。

大学とのつながりの重要性

高野陽平（平27生環）

農学部同窓会創立70周年おめでとうございます。このようなタイミングで寄稿の機会、また、自分のキャリアを振り返る機会をいただくことができ、大変ありがたく思います。

新潟大学農学部生産環境科学科を卒業後、新潟県内の建設コンサルタントへ就職し、早くも8年が経ちます。私は大学で、水田を活用した防災・減災の取り組みである「田んぼダム」に関する研究を通して、農地の排水シミュレーションの基礎知識を学びました。入社1年目に携わった業務は、その田んぼダムの浸水抑制効果の検証に関するものでした。大学で学んだ知識を活かしながらも、分からない事があれば、すぐに何度も大学へ相談に伺っていた記憶

があります。大学での経験から、業務に主体的に取り組ませていただきましたが、自身の解析技術の未熟さや知識の乏しさを痛感しました。より高度な技術を身につける必要性を感じ、新潟大学大学院の博士前期過程へ社会人入学したのが入社2年目の秋です。修士の2年間は、排水シミュレーションモデルの開発に没頭しました。今では信じられないくらい遅い時間まで吉川先生と議論を重ねた日々はとても良い思い出であり、その経験が今の私を作っていると言っても過言ではありません。現在は、これまでと同様にコンサルに勤めながら、博士後期課程へ進学し、業務と研究を両立しています。

大学院へ進学し、研究を通して技術力を高めることで、より専門性の高い仕事に携われるようになったと思っています。昨年度は業務経験や研究活動を基に技術士資格を取得する事ができました。また、主担当者として取り組んだ業務が農政局より表彰をいただきました。当然、チーム全員の努力によるものですが、リカレント教育（学校教育を終えた社会人が再び学校に戻り教育を受けること）の重要性を強く感じております。今後も「なりたい自分」を実現させるべく、業務や研究に励みたいと思っています。

次回の筆耕者は、同じ研究室の後輩の石村謙太さんにお願いしました。よろしくお願いします。

新潟を離れ早20年

堀　泰　宏（平12生環）

平成14年3月、大学と大学院合わせて6年間という楽しかった新潟生活を後にし、故郷福井県に戻り20年が過ぎました。

卒業後は福井県庁に採用され、出先事務所や本庁勤務を経て、現在は福井県越前市にある丹南農林総合事務所で林業普及指導員として業務に従事しております。

現職場では、主に森林組合などの林業事業体への技術指導や市町担当者への支援、児童や一般県民に向けた県産材や県産特用林産物の普及体験活動を行っております。

また、今年度は周囲からの強いプレッシャー？もあり、ようやく重い腰を上げ「森林総合監理士」の資格試験を受験し、何とか合格することができました。しかし、現職場での勤務も6年目、そろそろ異動発令のタイミングかなとも感じており、せっかく取得した資格を活用する場から離れてしまうかもしれません。

仕事以外の面では、大学時代から始めたアメリカンフットボールを社会人になってからも続け、兵庫県尼崎市にあるクラブチームでお世話になりました。練習は主に土日で、土曜の朝に電車で福井から尼崎へ移動⇓土日練習⇓日曜夜に帰福する、という生活を10年間続けておりました。チームでは日本一を目指して日々頑張っていましたが、残念ながらあと一歩のところで夢破れてしまいました。しかし、大阪での試合では、今回ペンリレーの紹介をいただいた西井君にも何度も試合会場に足を運んでいただき、卒業後も楽しく交流させてもらいました。また、私のレプリカユニフォームもご購入いただくなど、売り上げに貢献いただきありがとうございました！

最後になりますが、卒業後、大学時代の同窓生とはほとんど会う機会もなく20数年が過ぎてしまいました。このコロナ禍が過ぎ去ったのち、

原木しいたけ栽培体験会

みんなの顔を見られたらと思う今日この頃です。

次回は同じ研究室の後輩である近藤康行さんにお願いしたいと思います。卒業後、博士号を取得されるなど、とても頑張っている近況は聞いていたのですが、会う機会もない中、今回快く引き受けていただきました。

自分のペースで

角田　貴恵（平20生環）

① 近況

農学部を卒業後、林業職の国家公務員として勤務したのち、事務職の地方公務員に転職しました。児童福祉の窓口業務や固定資産税の調査業務を経験し、様々な業務を担当することが難しく思えましたが、直接市民の方々の役に立っているとやりがいを感じています。現在は第一子の育休中のため、子ども中心の生活です。初めての育児に悩むこともありますが、他のママさんと交流したり、子どもと色々な遊び場にお出かけをしたりして、毎日楽しく過ごせています。

② 熱中していること

子供の成長記録のために写真を撮ることです。現在2歳なのですが、動きが少なかった赤ちゃんの時代と比べ、逃げたり、カメラを触りに来てしまったりと撮影が難しくなりました。そうした自然な表情も良いのですが、特に笑顔や良い動きを写真に収めることができると、とても嬉しいです。また、何か新しいことをできるようになった時も写真に残すようにしています。プリントした写真をアルバムに入れ、眺めるのも幸せな時間です。

③ 最近感動したこと

湯沢高原ロープウェイの山頂駅から見た、雲海の広がる山並みの景色に感動しました。出産前は夫婦で山登りをすることもありましたが、最近は全く登る機会がなく、久しぶりの山頂から眺める山々の景色に心が癒されました。初めての家族旅行で訪れたのですが、将来子どもが成長したら、一緒に山登りで来てみたいと思いました。

④ 在校生に対するメッセージ

これまで失敗や、上手くいかないこともありましたが、後で振り返ると、時間はかかったが達成できたことや、思ったとおりでは無かったが良い結果になったこともあります。他の人と比べず、焦らずに自分のペースで大丈夫なのだと実感しています。在校生の皆さんには、勉強も遊びも自分のペースで楽しく学生生活を過ごしていただきたいと思います。

⑤ 次回の筆耕者の紹介

生産環境科学科の同期生の坂上公男さんです。よろしくお願いします。

家庭と家事の両立に苦労する日々です

篠原　祥子（平25応生）

平成25年に応用生物科学科を卒業した篠原（旧姓　長谷川）祥子です。

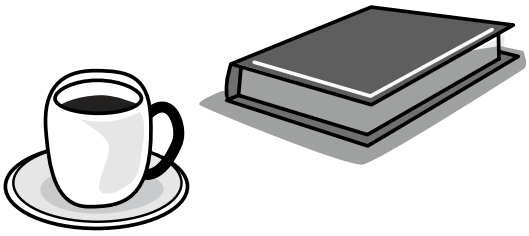
卒業後、新潟市職員として採用され、かれこれ勤続10年目となります。いつの間にやら中堅職員と呼ばれるようになりました。私たち同世代からそれ以降に採用された農業職と「若手農業技師の会」というグループを結成し、交流しているのですが、もはや私たち世代は若手を名乗れな

いお年頃になってしまったようです。でも技師会には正真正銘の若手職員もいますので、そこでの交流を通しながら気持ちは若くあり続けたいと思う今日この頃です。ちなみに今は秋葉区役所で勤務しており、花のまちならではの鉢花のＰＲに関する業務や、米の需給調整に関する業務などに従事し、様々な課題に直面しつつ、同僚たちと楽しく、時にぶつかり合いながら地元農業の振興に努めています。元々花は好きでしたが、今はＮＨＫの「趣味の園芸」を見るのが趣味となりました。いつか自宅の庭で趣味全開の花壇や寄せ植えを作るのが夢です。

　また、仕事をする傍らで、この原稿が刷り上がる頃には3歳になる娘を育てております。実母から「あなたはキティちゃんの毛布を与えておけば、昼寝をしたまま翌朝を迎えるような眠りすぎ女だった」とよく言われていたのですが、私の娘は残念ながら昼寝をしなくても大騒ぎで遊ぶ体力オバケでした。子育ては日々体力勝負ですが、成長する娘を見るのは楽しく、口達者になる娘が2歳のくせに生意気だな、でも可愛いな、と思う毎日です。そんな娘の最近の流行は、アンパンマンとすみっコぐらし、そしておジャ魔女どれみです。プリキュアではないところに趣を感じます。

　つい先日、親子揃って新型コロナウイルスに感染してしまいました。体調が優れない中、体力オバケを一人で相手するのはまるで何かの試練のようでした。これを読んでいる皆さんがコロナに罹らないことを祈っております。

　最後に、このペンリレーのバトンを学部同期の森茉莉さんに渡そうと思います。茉莉とは、自宅から通学する同士で仲良く、一緒に講義を受けたり、カラオケに行ったり美味しいケーキを食べたりお茶を飲んだり、楽しい思い出が沢山あります。よろしくお願いします！



「新潟大学カード」入会のご案内

●新潟大学全学同窓会では、新潟大学の発展を支援し、同窓会員へのサービスと連携を深める目的で、三菱ＵＦＪニコスと連携して「新潟大学カード」を発行しています。

入会費・年会費 **無料**

この機に是非ともご入会を！

※詳しくはホームページ
http://www.niigata-u.ac.jp/dousokai/card/ をご覧ください。

トピックス

「フィールドを舞台に農業DXをけん引する高度農業人材育成プログラム」を開始

農業DX事業　ディレクター
長谷川　英　夫

卒業生の皆さんは附属農場にどんな思い出をお持ちですか。田植えの実習、畑作物の栽培管理あるいは乳牛の実習を思い出すでしょうか。卒業研究や修士論文で農場を利用した卒業生もいることと思います。

１９５６年に制定された大学設置基準第39条に農学に関する学部には農場、獣医に関する学部・学科には家畜病院、畜産に関する学部・学科には飼育場または牧場を設置することが定められ、農学部に附属農場を設置する根拠となりました。以後、新潟大学においても、附属農場は教室での座学を実践する場として機能してきました。近年では、国立大学法人化、予算削減の流れを受けて、保有する機械・設備の老朽化が顕在化していました。

可変施肥が可能なスマート田植機（新通ステーション）

新潟大学着任まで大学附属農場の教員であった私は、こうした現状を克服して、農学部に入学した学生が附属農場の実習を通じて最先端の農業を体験し、さらにその先にある農業の姿を考えて欲しいと願ってきました。令和３年12月26日、文部科学省は「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業ＤＸをけん引する高度専門人材育成事業」の公募を開始したことを聞き及びました。その事業に採択されることは、附属農場にとって「ゲームチェンジ」ともいえる機会になると確信しました。申請書の作成は、「新潟の強みと特色は何か」を問い直す機会となりました。

令和４年３月30日、同事業に無事採択され、４月１日より「フィールドを舞台に農業ＤＸをけん引する高度農業人材育成プログラム」を開始しました。スマート田植機、日本に1台の土壌分析装置、最先端のロボットトラクタ、温室効果ガスのモニタリングシステムなど数々の高度な機器を附属農場に導入することができました。今後はこれらのＤＸ機器を農学部の教育と研究にフル活用して、データサイエンティストの資質を備えた高度農業人材の育成を推進します。さらに、同事業で採用された奥石裕之特任助教、ボリス　ボヤルスキー特任助教、小海松男特任専門職員と力を合わせ、農業ＤＸに関する産業界等と共創拠点を村松ステーションに形成することに努め、地域の課題解決を図ります。

日本に初めて導入された土壌分析装置（村松ステーション）

附属農場村松ステーション畜産班長を務める田中繁史技術専門職員（平成14農生）は「乳牛の画像からの体重推定技術の開発」に対して、北信越畜産学会から学会賞を授与されました。同職員は、大学院自然科学研究科博士後期課程にも在籍しており、板野志郎准教授（家畜草地学）による実質主指導のもと、令和５年２月の学位論文提出を目指しています。先述した農業ＤＸ人材育成事業において、牧草生産に係る機械設備は最も機器更新が図られた分野であり、ＤＸ機器の活用を通じた教育研究への貢献が期待されます。

ロボットトラクタ（村松ステーション）

農学部における国際交流について

農学部国際交流委員会委員長　原　田　直　樹

農学部同窓会の皆様には、日頃より農学部の国際交流活動にご理解を賜り、誠にありがとうございます。

ご存じの通り、２０２０年からの新型コロナウイルスＣＯＶＩＤ－19感染症の世界的流行により、大学の国際交流は大きな制限を受けています。本学でも学生の海外留学・旅行や教員の海外渡航が全面的にストップした状態となりました。しかし昨年の中頃からようやく風向きが変わり、徐々に正常化へと進んでいます。

２０２２年12月現在、本学では渡航先国および経由国における外務省感染症危険情報がいずれもレベル１以下であるか、レベル２又は３の場合であってもその事由が新型コロナウイルス感染症の影響である場合には、海外で行われる国際会議・学会への参加が教職員・学生とも一定条件を満たすことで可能となっています（危険情報レベルについては１以下でなければならないという点は従来通り）。

また学生の渡航を伴う海外留学も同様の条件のもとで実施されるようになっている他、オンライン型の国際交流プログラムやバーチャル留学プログラムも導入され、必ずしも海外渡航をしなくともグローバル対応力の養成が可能な体制が整いつつあります。一方、農学部独自の海外学生派遣プログラムについては、実施のタイミングや派遣先の事情などの理由によりまだ再開できておりません。２０２２年度はその代替として、本学で農学を学ぶ外国人留学生（大学院生）を活用し、また海外からのオンライン講義を取り入れることで異文化理解力を高めることを目的とした科目を学部生向けに開講しました。この他、外国人留学生の新規受入については、大学院の農学系コースを対象とする２つの文科省「国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム」やＪＩＣＡ事業を中心に比較的順調に進んでいます。

農学部と海外の大学等の部局間交流協定の締結校として、今年度から新たにバングラデシュ人民共和国のラジシャヒ大学生物科学部および生物科学研究所が加わりました。この協定の締結により、農学部が締結している部局間交流協定は18となりました（２０２２年12月時点。この他農学部を提案部局とする大学間交流協定校もある）。さらに学術交流では、恒例の刈羽村先端農業バイオ研究センター（ＫＡＡＢ）国際シンポジウムがこの３月に開催される運びとなっています。

農学部の国際交流を巡っては以上のような状況になっております。来年度こそは国際交流活動の正常化を期待しております。皆様の変わらぬご支援をどうぞよろしくお願い致します。

学部だより

新任教員紹介

生物資源科学プログラム
教授　山崎　将紀

２０２２年４月に着任しました、山崎将紀（やまさきまさのり）と申します。農学部同窓会の皆様にご挨拶申し上げます。

私は福岡県出身で、九州大学で学位取得後、九州大学や米国ミズーリ大学で博士研究員を勤め、神戸大学大学院農学研究科附属食資源教育研究センター（附属農場）の専任教員として、教育と研究に従事いたしました。

専門は作物学と遺伝育種学です。特にイネを使って多種多様な品種や系統、交雑系統を養成して、開花期や収量性などの形質評価や種子管理と同時に遺伝解析を行い、関与する遺伝要因の特定を進めています。新技術の導入や新品種開発も進めています。また、農学部附属フィールド科学教育研究センターでの教育と研究にも従事いたします。

新潟県はイネ品種「コシヒカリ」の大産地です。今期イネを栽培してみると、梅雨の時期に雨が少なく高温となり、イネの開花時期（８月上旬から中旬）に雨が多いなど新潟県にとっては稀な気候だそうで、環境変動は確実です。そのような状況でも安定したコメ生産や品質の維持を目指して、総合的な技術開発をしていき、教育研究に励みます。

流域環境学プログラム
助教　斎藤　嘉人

２０２２年４月１日に助教として着任した斎藤嘉人（さいとうよしと）と申します。専門分野は「バイオセンシング工学」で、主に「光」を用いた農作物や食品の非破壊品質評価を専門としています。

出身は新潟県燕市吉田の嘉平豆腐店（かへいとうふてん）という小さな町の豆腐屋で、小さいころから大豆栽培や豆腐製造に関わってきました。それがきっかけで農学に興味を持ち、京都大学農学部に進学、その後京都大学大学院農学研究科で博士（農学）を取得しました。今年から地元新潟の地で農学に従事できることを大変嬉しく思っております。

私の研究分野は、最小の資源投資で最大の収量・品質を得るための「超精密農業」を実現するためにあります。食料生産と環境保全のトレードオフ問題が深刻化する中で、より正確に「農業」という複雑な現象を計測する「光センシング」の研究を軸に、教育・研究に励んでまいります。今後ともよろしくお願いいたします。

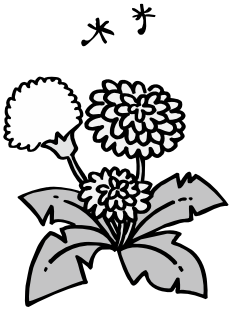
就業力育成科目
助教　長橋　徹

令和４年４月に農学部に着任しました長橋徹（ながはし　とおる）と申します。

出身は県内の三条市で、新潟大学大学院自然科学研究科で学位を取得した後、国際的プロジェクトの支援業務、科学館での教育普及業務、科学技術振興機構や大学にて産学連携業務等に従事し、令和４年４月より現職となります。

農学部では実務家教員として実施見学やインターンシップ等の「就業力育成科目」を担当します。「就業力育成科目」とは、学内外を学びの場として、学理と実際を結びつけ、実践的な現場適応力、地域社会貢献への強い意識、様々な課題に根気強く取り組む忍耐力や問題解決能力を大学４年間に段階的に育成し、農学を実社会に活かすための「農力」を身につけることを目的としています。

これから、担当科目を通して農学部生の人材育成に取り組んでいく所存です。どうぞよろしくお願い申し上げます。



嵐丘庭の草刈りを実施しました

今年度も嵐丘庭の草刈り作業等を実施することが出来ました。

渡辺仁会長、中田誠学部長の号令の下、新潟県支部会のご協力をいただき6月25日（土）に行われました。

今年度は、秋の草刈りが日程が合わないこと及び来年同窓会創立70周年記念事業として嵐丘庭木道の整備を予定していることから中止としましたが、6月の穏やかな日差しの中、約1時間程木道に沿って防草シートの敷設や除草等を行いました。

作業終了後の昼食を兼ねた情報交換会は、コロナ禍のため断念し、テイクアウト形式でお弁当やお茶などを配布しました。

農学部の動向

学会賞等受賞

○萩原大生（2021年3月修了）
・材料学会　信頼性シンポジウム優秀講演賞
・the International Workshop on Advanced Experimental Mechanics for Students and Young Researches 2022 (IWAEM' 22), Award to Outstanding Poster Presentations on General Poster Session by Students and Young Researchers

○島本由麻（2018年3月修了）
農業農村工学会　研究奨励賞

○柴野一真（大学院博士前期1年）
IAES—26（第26回国際アコースティック・エミッションシンポジウム）新進賞

○ウイタカ　アンドリュー　チャールズ（教員）
International Society of Paddy and Water Environment Engineering(PAWEES) 学会 International Award 賞

○北條杏梨（大学院博士前期1年）
令和4年度砂防学会「オンライン大会」若手優秀発表賞（優秀発表賞）

○楠原征治（名誉教授）
環境省令和4年度動物愛護管理功労者表彰

○羽鳥秀一（大学院博士前期2年）
7th International Symposium on Strategies for Sustainability in Food Production, Agriculture and the Environment 2021, Excellent Poster Presentation Award

○中村奈輔（大学院博士前期1年）
7th International Symposium on Strategies for Sustainability in Food Production, Agriculture and the Environment 2021, Excellent Poster Presentation Award

○大川あずさ(2021年3月卒業)
令和4年度日本植物病理学会大会学生優秀発表賞

○田中繁史（技術専門職員）
令和4年度北信越畜産学会賞

○岩片奨吾（大学院博士前期2年）
第32回イソブレノイド研究会例会奨励賞

○阿部　透（大学院博士前期3年）
・第62回新潟生化学懇話会優秀プレゼンテーション賞
・第6回抗酸菌研究会奨励賞

○水島孝典（１９９６年３月卒業）
第６回インフラメンテナンス大賞
特別賞
○小林秀一（２０１６年３月修了）
第６回インフラメンテナンス大賞
農林水産大臣賞
○松本麻希（２０２２年３月卒業）
第63回日本食肉科学会大会　若手
優秀発表賞
○齊藤光佑（大学院博士前期２年）
令和４年度日本地域学会優秀発表
賞
○廣田昌史（大学院博士前期２年）
令和４年度日本地域学会優秀発表
賞
○ Nadezhda MOROZOVA（大学
院博士前期２年）
the International Workshop
on Advanced Experimental
Mechanics for Students and
Young Researches 2022
(IWAEM’22), Award to
Outstanding Poster Presentations
on General Poster Session by
Students and Young Researchers

学会等の開催

○イソプレノイド研究会（２０２２
年９月22日）第32回イソプレノイ
ド研究会例会、新潟大学、大会委
員長佐藤　努教授

学位取得

○佐藤　豊（１９８７年３月卒業）
農業工学科、博士（工学）、中央
大学、２０２０年９月
○澤　陽之（１９９８年３月卒業）
生産環境科学科、博士（農学）、
岩手大学、２０２０年９月
○鈴木亮佑（２００９年３月修了）
大学院自然科学研究科博士前期課
程、博士（農学）、東京農工大学、
２０２２年３月

会員訃報

岩永　千年（Ｓ23・３農専農）
安江　俊一（Ｓ23・３農専農）
小野　昭二（Ｓ24・３農専農）
藍澤喜久治（Ｓ25・３農専農）
長谷川貞平（Ｓ25・３農学）
木村　敬助（Ｓ28・３農学）
熊田　達郎（Ｓ28・３林学）
山本　　昌（Ｓ29・３総農）
若林助太郎（Ｓ29・３農芸化）
高橋　　威（Ｓ31・３林学）
諸橋　丈夫（Ｓ31・３林学）
小林　正吾（Ｓ32・３林学）
菊地　　耕（Ｓ33・３農学）
木揚六一郎（Ｓ34・３林学）
鈴木　恒夫（Ｓ34・３農学）
井関　昭一（Ｓ35・３林学）
井上　和久（Ｓ36・３林学）
坂爪　純一（Ｓ36・３農学）
中山　英明（Ｓ36・３林学）
泉　　達尚（Ｓ37・３林学）
伊藤　佳典（Ｓ38・３林学）
三浦　徳保（Ｓ40・３林学）
中野　正弘（Ｓ44・３農工）
中村　民夫（Ｓ50・３畜産）
井上　重夫（Ｓ51・３農学）
遠藤織太郎（不明・不明）
河野憲太郎（不明・旧職員）
（卒年次順・五十音順）

同窓会事務局からのお願い

住所《変更届》について

同窓会名簿の整備は、同窓会事業の根幹であり、運営の基となる貴重な資料です。

住所を変更された場合は、左記により農学部同窓会事務局までお知らせください。

住所変更の連絡方法
① 官製ハガキまたはＦＡＸ
０２５―２６３―３１０７
② E-mail：
dousou@agr.niigata-u.ac.jp

編集後記

松涛40号にご寄稿くださった方々、お忙しい中お引き受けいただき大変感謝を申し上げます。ありがとうございました。新潟大学農学部の「今」と、同窓生の方々の「今」をお届けできるのが「松涛」の魅力だと考えております。

コロナ禍となり4年目、さらにはロシアのウクライナ侵攻から1年、新潟大学農学部にも私たちの身の回りにも大小様々な変化が急速に起こっております。そして、それに対応しなければならない日々は、まさに「大変だ」の一言に尽きるかもしれません。前回39号で「コロナウイルスは3年で治まるだろう」というある医師の話を書きましたが、そうはならなかったという気持ちです。

しかしながら、世の中は以前の生活を徐々に取り戻してきている感もあります。令和5年11月には同窓会70周年記念事業も計画されており、次回の松涛41号では、各方面における活発化した活動の様子をお届けできるのではないかと期待もしております。そして、このような期待が持てるということは、とても幸せなことなのだとも感じております。

松涛編集委員会は、第2回目を諸事情により見送ったため39号に引き続き委員の写真がございません。楽しみにしておられた方々(今回もゼロかもしれませんが)ご容赦願います。

農学部同窓会創立70周年

農学部同窓会は今年創立70周年を迎えます。下記により記念事業を行いますので、会員の皆様の多数のご参加をおねがいします。

記

1．実施時期　令和５年11月11日（土）
2．実施場所　ANAクラウンプラザホテル新潟
3．記念事業（予定）
・記念式典　13：30～
・記念講演　14：10～
テーマ：**新潟発「日本酒学(Sakeology)」**
講演予定者：**平田　大**　新潟大学日本酒学センター 副センター長
：**畑　有紀**　新潟大学日本酒学センター 特任助教
：**新野 義弘**　朝日酒造株式会社 総務部参与

・祝 賀 会　16：00～
・嵐丘庭の整備
・記念誌の発行

以上

記念事業にあたっては、下記趣意書のとおり会員皆様のご協力をお願いします。

新潟大学農学部同窓会創立70周年記念事業

趣　意　書

師走の候　同窓生各位におかれましてはますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

新潟大学農学部は、昭和24年前身の新潟県立農林専門学校を母体に、市内河渡（新潟市東区小金町地内）において、農学科・林学科・総合農学科の３学科で発足しました。

その後、幾たびかの学科改組や五十嵐キャンバス（新潟市西区五十嵐）への移転を経て、平成29年に1学科５主専攻プログラム体制に移行し、理学部との学部横断型プログラムを新設する等、「生命」、「食料」、「環境」の教育研究を更に充実させて現在に至っております。

新潟大学では、世界初の学問領域「日本酒学」の創設を目的に、平成29年に新潟県及び新潟県酒造組合と連携協定を締結し、平成30年に３者の連携協定に基づき、新潟大学に日本で初めてとなる「日本酒学センター」を設置しました。

このセンターの設置や運営、教育には農学部の教員が中心的な役割を果たすとともに、多くの教員が貢献しています。

また、就職率は全学部の中でも高く、就職に強い学部として紹介されており、これまでに○○余名の卒業生を輩出し、各分野で活躍しております。

こうした母校の発展は、同窓生各位による農学部の教育実践・学術活動へのご理解とご支援の賜と衷心より感謝する次第です。

この間、同窓会活動も少しずつ充実し、平成25年の創立60周年では、学部校舎の大規模改修に併せて記念事業「同窓生と学生の思いを、未来へつなげる森づくり」のテーマをもとに、新たな「嵐丘庭」を学生と同窓生の協力で整備しました。

成長した現在の「嵐丘庭」は、学部関係者はもとより地域住民にも親しまれ、癒しの場として利用されていると伺っております。

しかし、10年が経過し植樹した樹木も大きくなり、設置された木道も経年劣化が否めず、関係者からは、今後の維持管理を見据えた再整備の要望が出されております。

この度、農学部同窓会創立70周年を迎えるにあたり、日本酒にまつわる記念講演や記念誌作成及び「嵐丘庭」の再整備を中心とした記念事業を計画しております。

同窓生各位におかれましては、趣旨をご理解いただきご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和４年12月吉日

農学部同窓会長　渡　辺　　仁
農学部同窓会
創立70周年記念事業実行委員長　渡　辺　広　治

【記念事業の内容】
○記念式典及び記念講演会の開催　○記念誌の作成　○「嵐丘庭」の再整備

※「趣意書」は既にホームページに掲載したものを再掲しております。